

バードリサーチ研究大会, 2023年1月7日から8日、遠隔

獣医大における傷病野生鳥類救護 活動と鳥類医学・医療—拠点施設閉鎖 となり回顧・論考する

北海道
(社)北海道獣医師会
指定
野生傷病鳥獣受診
動物病院



浅川満彦 (酪農大 獣医動物
/WAMC)



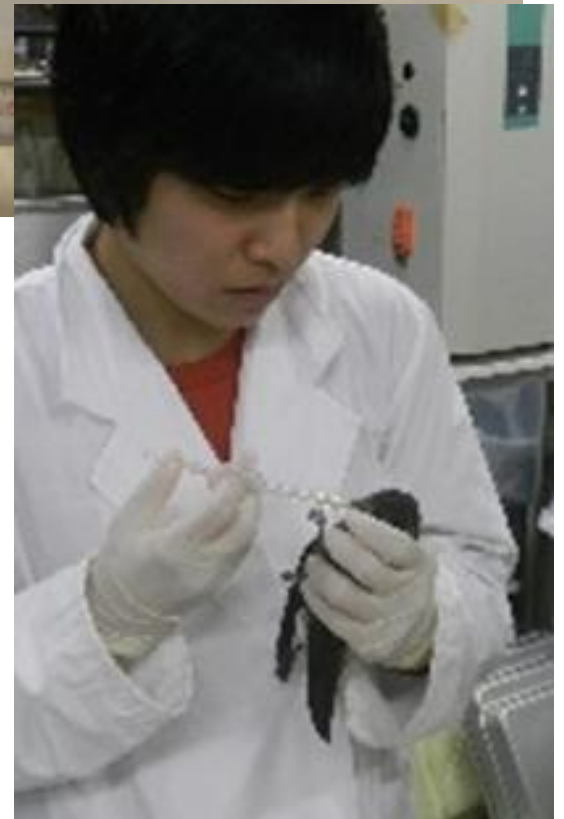
酪農大における救護活動の魁

- ・1988年12月、酪農大附属家畜病院は、道庁・道獣医師会の要請受け、「野生傷病鳥獣受診動物病院」を設置、外科系ラボが対応。
- ・交通事故、油汚染、鉛中毒などに罹患した**野鳥中心**に搬入。
- ・この体制は2004年4月、同大・附属家畜病院が動物病院（現・動物医療センター）として新設されるまで継続。

- 野生動物病院は、2004年度に新動物病院構内に付置された**野生動物医学センターWAMC**に移転。
- 動物が、生きたまま搬入された際の係留施設は入院舎に転用。
- 演者のもとに集結する学生・院生に助けられ2022年春まで維持。

WAMCへ継承





本学における救護活動の停止

- 2022年夏、欧州獣医学教育機関協会の認証取得のため、バイオセキュリティ見直しを行い、WAMCでの野生動物(生体・死体とも)搬入禁止と決定。
- 野生動物病院の看板は、本学附属動物医療センター長に返還。
- 約34年間の救護活動の停止。





教育上の 問題点

- 演者は**救護活動に関し消極的**。生態系の健康を包含するワンヘルスが獣医療を席卷する今、一層強化。
- 一方、傷病個体拒否は教育・啓発上、大きな問題。
- この活動自体に是々非々、様々な論議。たとえゴールが見えなくとも、学生が直に体験することで、生きた論議が可能。





今後に向けて

- 動物の立場になるのなら、野生動物には教育の場に参加・協力して頂いているというのが適切な表現。
- WAMCのような場でこそ、適切な教育が展開可能。獣医大が救護から撤退したら、どこで論議が継続されるのか。
- 国際認証とは影響のない場所に、新設の働きかけを模索中。ご支援ヨロシク！
- 以上の写真はWAMC公式フェイスブックhttps://www.facebook.com/mitsuuhiko.asakawa/photos_by より借用